

第3章

構想実現に向けたチャレンジ

‘豊かな未来社会’の実現に向けて

2つのグリーンフィールドの3つのプロジェクト

- 2つのグリーンフィールドで3つのプロジェクトを展開する。

夢洲

2023年～

夢洲コンストラクション

390haの広大な開発を先端テクノロジーを活かして安全、健康、短期間に整備



2025年

大阪・関西万博

世界から集う2820万人※がいのち輝く未来社会のデザインをテーマに最先端技術を体現



提供：2025年日本国際博覧会協会

※ 開催期間中（4月13日～10月13日）における想定来場者数



うめきた2期

2024年～

うめきた2期

250万人/日が行きかう都心で
みどり×IoT×健康による
Parkness Challenge



イメージパース（提供：うめきた2期地区開発事業者）



夢洲：夢洲コンストラクション

夢洲：夢洲コンストラクション 全体概要

- 夢洲では、2025年大阪・関西万博の開催に向け、会場整備やインフラ整備等の建設工事を円滑に行うため、工事車両の渋滞対策や作業員の円滑な移動などに取り組む
- i-Constructionの取組をデータ（BIM・CIM含む）とデータ連携基盤の活用により一層発展させる
- グリーンフィールドである夢洲を実証の場に、最先端技術の活用による建設工事の安全かつ円滑な実施を通して、QoLを高める技術の創出を推進し、将来のまちづくりに活かしていく



夢洲コンストラクションの3つの柱

建設工事現場内外の移動 円滑化

- データ等の活用による交通量予測に基づくピークシフト誘導
- 位置情報及びデータ分析に基づく車両管理
- 駅及び共同駐車場からのシャトルバス・デマンドバスの運転管理

建設工事・資源運搬 円滑化

- BIM/CIM等を活用した建設工事の効率化
- データ及びセンシングによる局所的な気象予測
- ドローンによる建設工事の円滑化
- シャトルバスを活用した資材運搬(貨客混載)

建設作業員の安全・健康管理 円滑化

- AIによる顔認証での建設作業員の入退場管理
- バイタル情報及び位置情報によるリアルタイムでの安全・健康管理

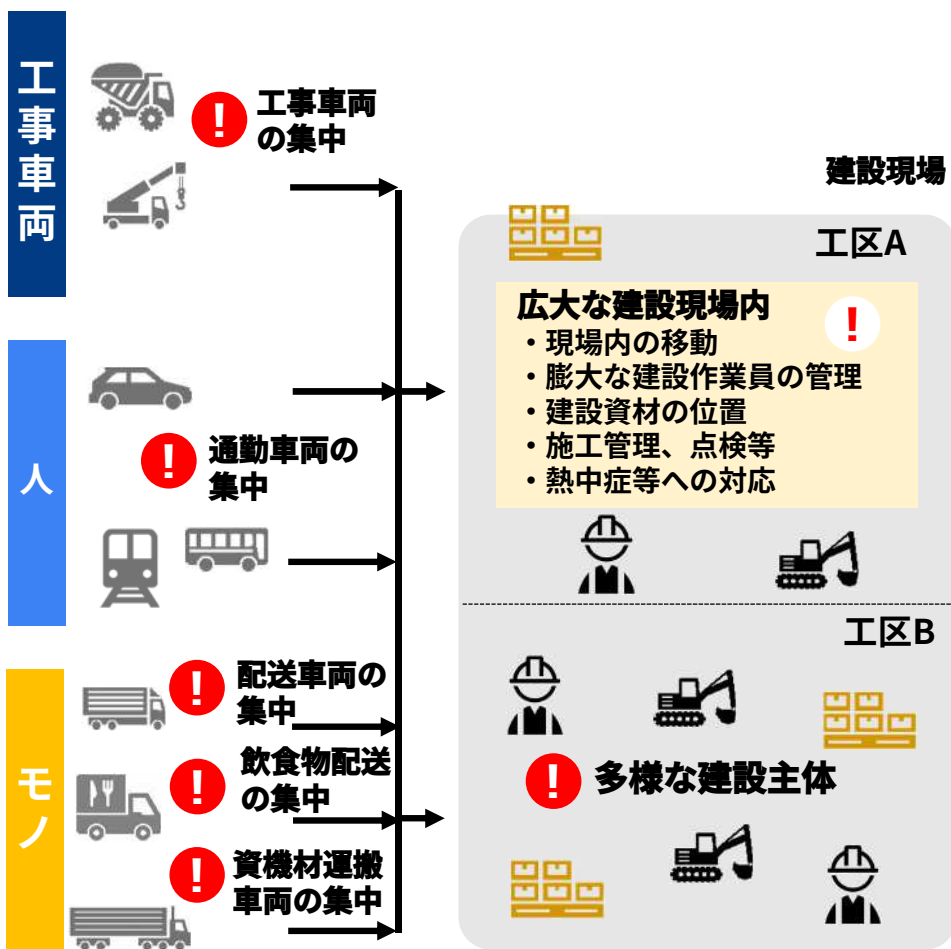
夢洲コンストラクションで実現した技術やサービスを
全国の大規模建設工事を始め、まちづくりにも発展的に活用

夢洲：夢洲コンストラクション 全体概要

- データ連携により、車両、人、モノの情報をつなぎ、建設工事現場内外の移動、建設工事及び資材運搬、建設作業員の安全・健康管理の3つの円滑化を推進する。

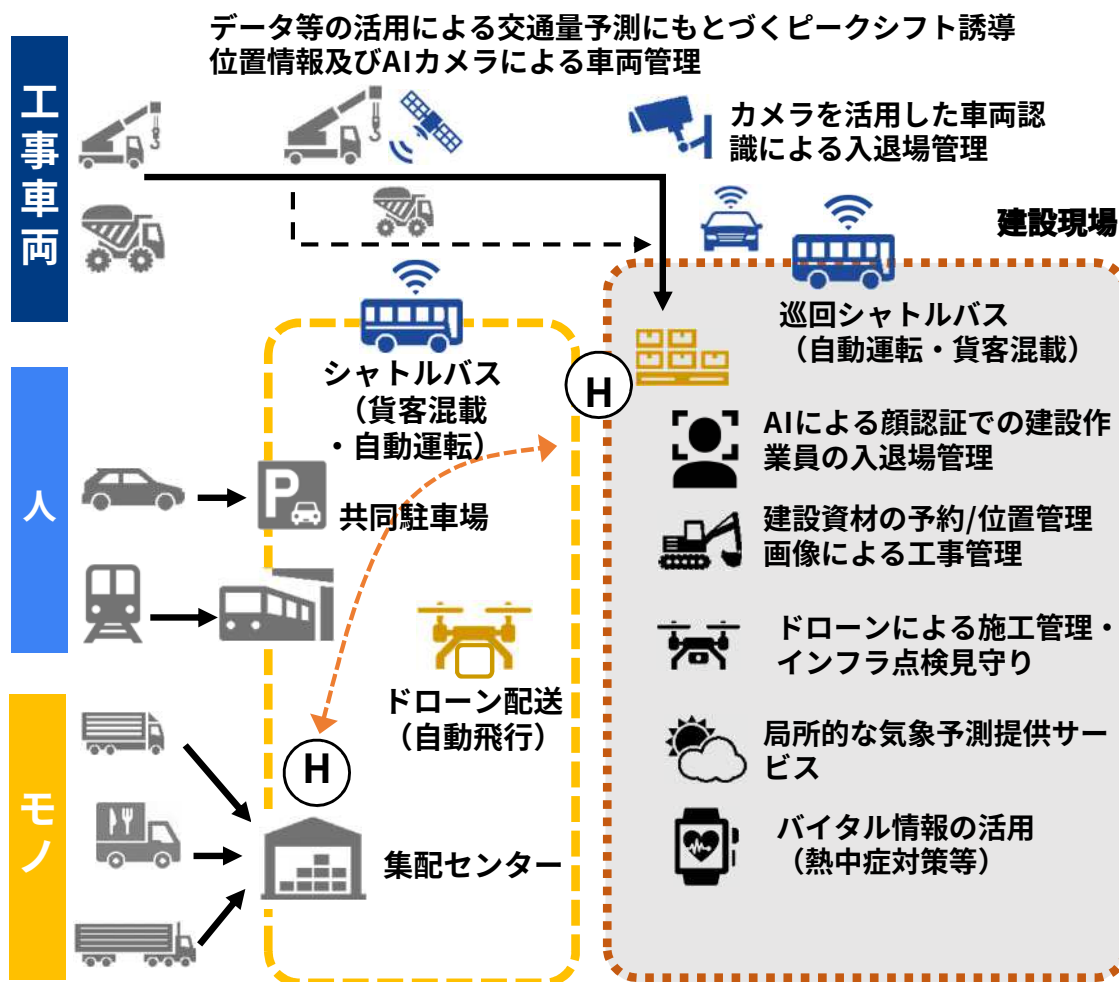
現状

各工区のデータはそれぞれが管理、サービスも各工区それぞれ実施

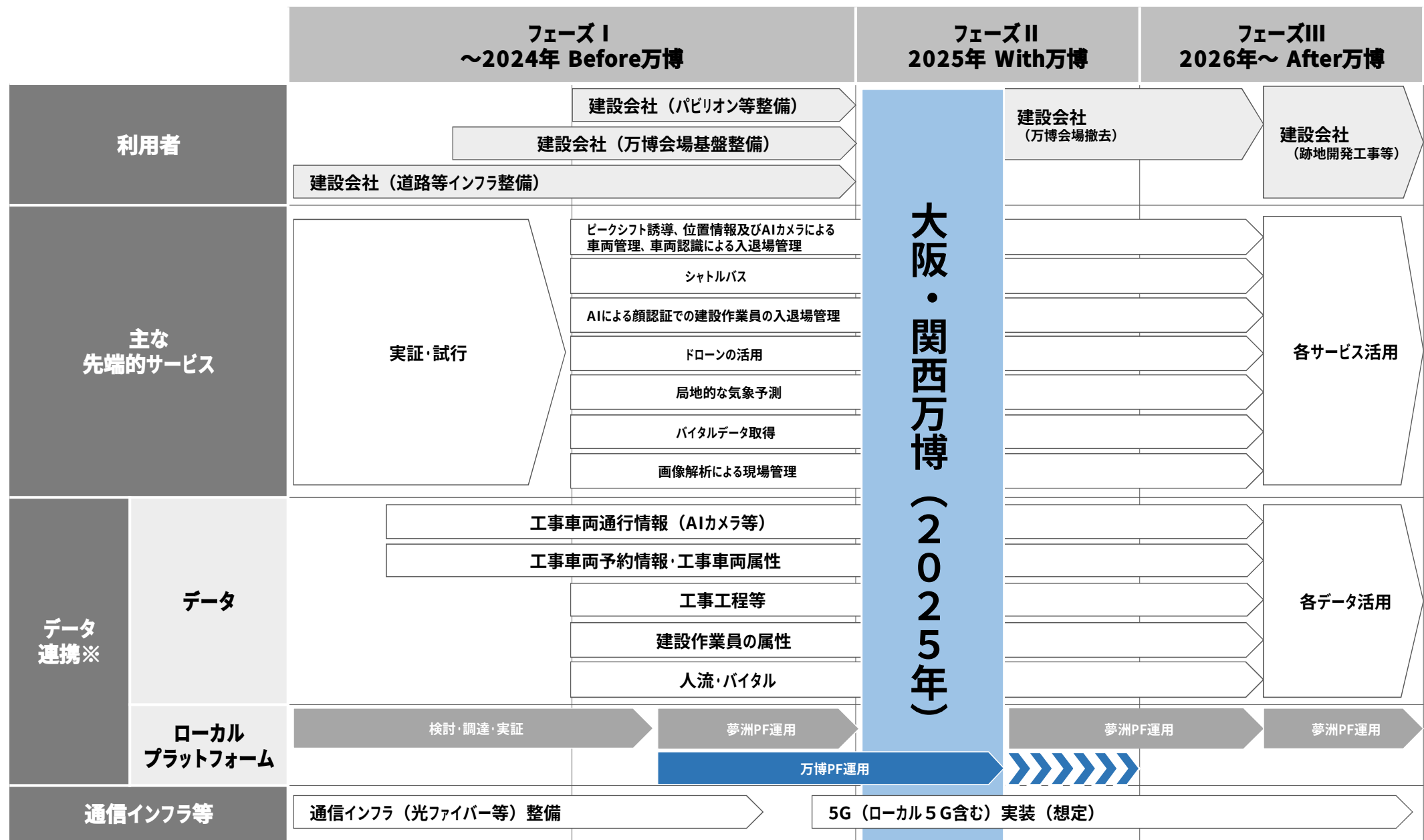


データ連携基盤の導入

データ連携基盤により各工区のデータを連携し、各工区共通の先端的なサービスの実現をめざす



夢洲：夢洲コンストラクション 事業スケジュール



※ データ連携は、ORDEN検討状況を踏まえ検討予定

夢洲：夢洲コンストラクション 実現をめざす先端的サービス

大分類	概要	先端的サービスの詳細内容
建設工事現場内外の移動の円滑化	車両の入場管理には交通誘導員の目視等で行われることが多い。万博会場等の建設工事では工事車両数が多く、目視による入退場管理では時間を要し、交通渋滞を発生させる懸念がある。そのため、事前に建設車両の入退場時間を予約し、入退場ゲートでのカメラによる画像認識により予約車両の確認を自動化することで工事現場への円滑な入場が可能となる。	① データ等の活用による交通量予測にもとづくピークシフト誘導 ② 位置情報及びデータ分析にもとづく車両管理 ③ カメラでの車両認識による入退場管理 ④ 駅及び共同駐車場からのシャトルバス・デマンドバスの運転管理 ⑤ 建設工事現場内及び夢洲内でのパーソナルモビリティの導入
建設工事・資材運搬の円滑化	広大な建設現場では、遠方の資材倉庫等へ資材を取りに行く必要がある。そこで、各工区の資材ストック情報を自動的に取得し、不足する場合には集配センター等の資材を現地地理情報から最適な運搬ルートを設定し、ドローン等による運搬を行うことにより、工事の円滑化だけでなく、建設作業員の負担軽減にも寄与する。	⑥ BIM/CIM等を活用した建設工事の効率化 ⑦ データ及びセンシングによる局所的な気象予測 ⑧ ドローンを活用した測量・工事管理 ⑨ ドローンによる建設現場の見守り ⑩ ドローンによる資材等の運搬、作業現場域内の高所等への資材配送 ⑪ シャトルバスを活用した資材運搬（貨客混載） ⑫ 遠隔型自動運転ロボットを用いた物資運送
建設作業員の安全・健康管理の円滑化	万博会場内の建設工事は広大な敷地での工事であり、建設作業員に熱中症や突発的な体調不良などが生じた場合には即時の対応が求められる。そこで、オプティンにより建設作業員の年齢や既往歴などを事前に登録し、この属性情報とスマートウォッチ等によるリアルタイムで位置情報とバイタルデータを取得することで異常発生時の即時の対応が可能となり、建設作業員の安全・健康管理に寄与する。	⑬ AIによる顔認証での建設作業員の入退場管理 ⑭ バイタル情報及び位置情報によるリアルタイムでの安全・健康管理 ⑮ 建設資機材の位置情報及びカメラ画像を活用した建設現場の安全管理

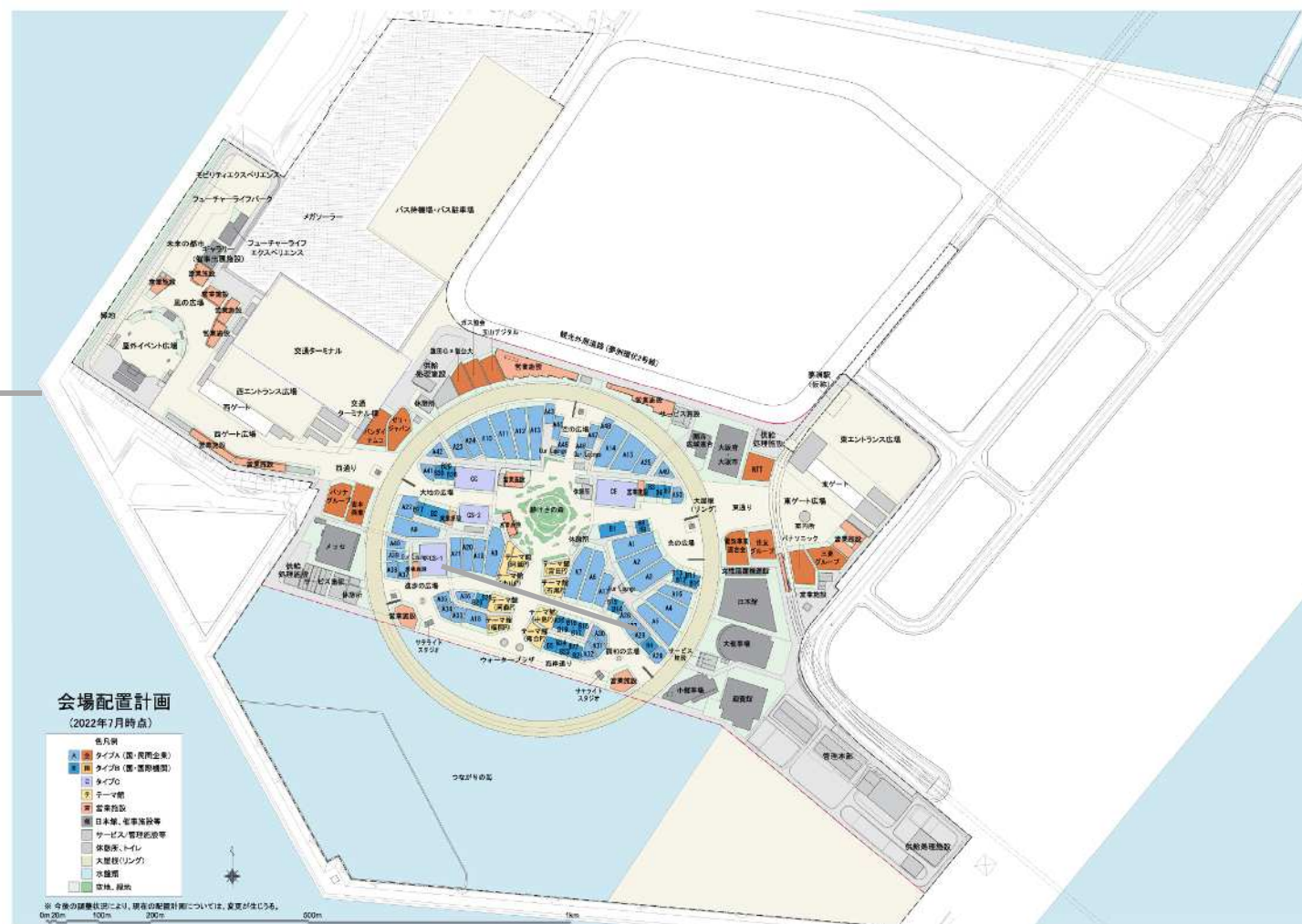
夢洲：夢洲コンストラクション 特例措置

- 先端的サービスの一部においては、実現にあたって規制改革が必要となるため、下表に示すような提案をしていく。

大分類	概要	特例措置
建設工事・資材 運搬の円滑化	⑦データ及びセンシングによる局所的な気象予測	・予報自動化にかかる規制緩和〔気象業務法〕
	⑧ドローンを活用した測量・工事管理	
	⑨ドローンによる建設現場の見守り	・非接触充電のポート設置にかかる規制緩和〔電波法〕
	⑩ドローンによる資材等の運搬、作業現場域内の高所等への資材配送	
	⑪シャトルバスを活用した資材運搬（貨客混載）	・貨客混載にかかる規制緩和〔貨物自動車運送事業法関連通達〕 ・レベル2の自動運転走行にかかる規制緩和〔道路交通法〕

夢洲：大阪・関西万博

-
- Super City
- うめきた2期
- 夢洲
- Super City

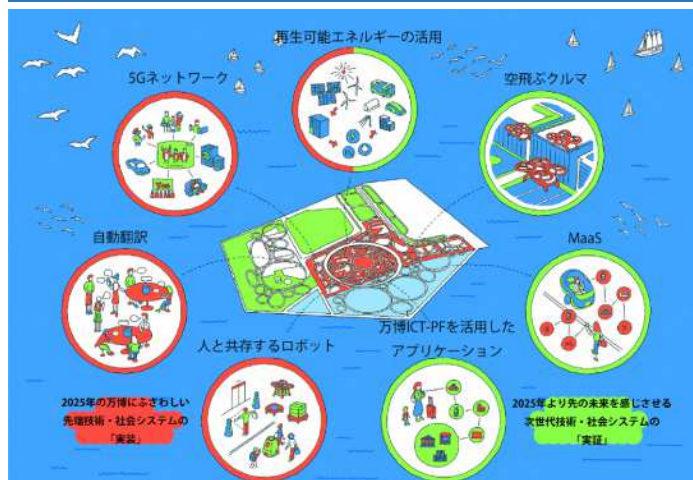


30

夢洲：大阪・関西万博 全体概要

- 大阪・関西万博では、4つの特徴的な先端的サービスをはじめ様々な取組が進められる。

未来社会のショーケース・イメージ



出所：「2025年日本国際博覧会基本計画」より抜粋

大阪・関西万博会場イメージ図



提供：2025年日本国際博覧会協会

① 近未来の医療・健康サービス

- 大阪ヘルスケアパビリオンでは、来館者のヘルスケアデータを取得し、未来のフード、ヘルスケアなど、パーソナライズされた体験ができるサービスを提供



② スマートモビリティ (自動運転車)

- 万博会場内外のバスの移動を、自動運転（レベル4相当）で実施



③ スマートモビリティ (空飛ぶクルマ)

- 日本初の空飛ぶクルマの社会実装
- 大阪市内、関西の主要空港・観光地から万博会場を結ぶアクセスを担う

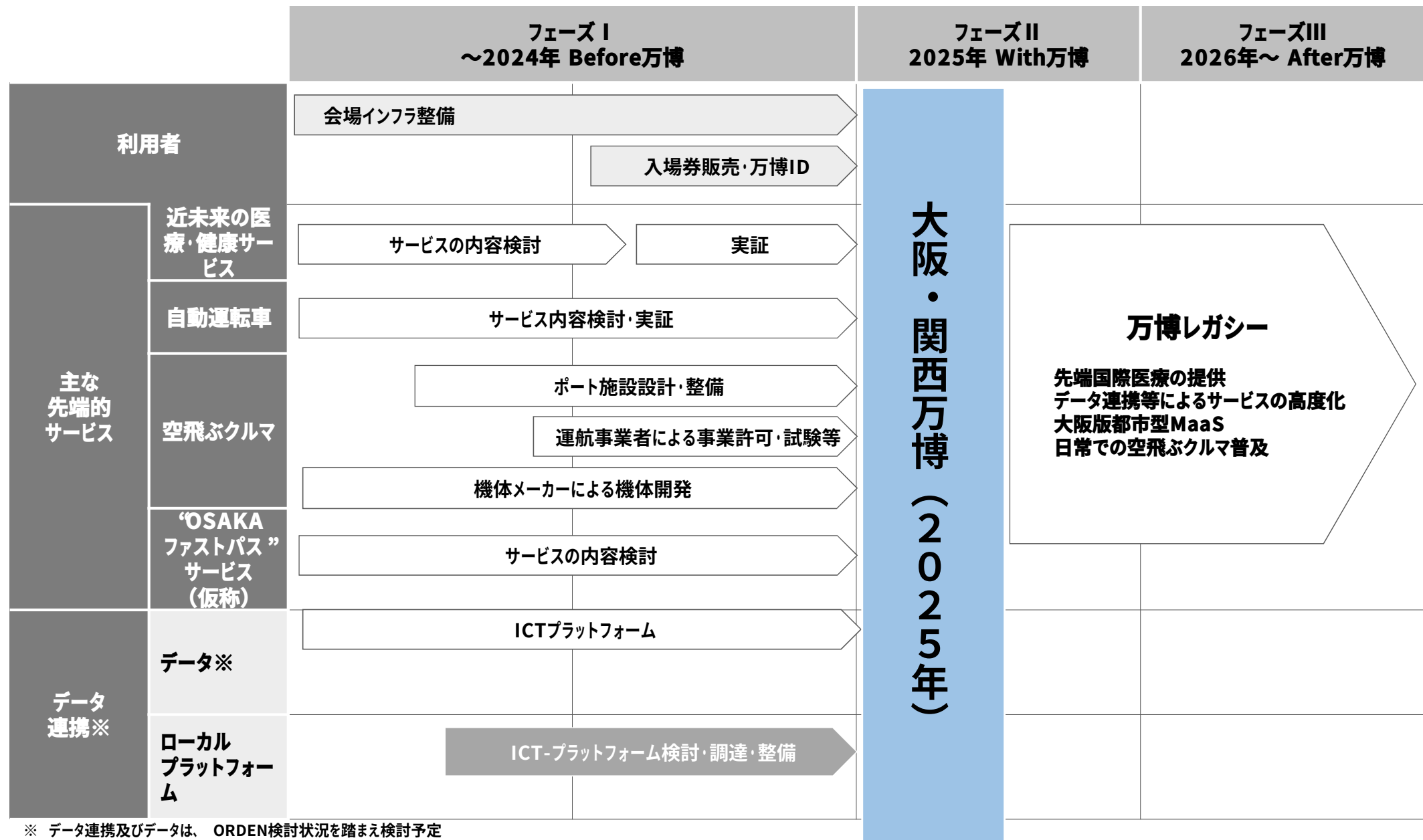


④ “OSAKAファストパス”サービス (仮称)

- 移動に関する情報の収集・提供、交通流動の最適化を実現
- リアルタイムでの混雑予測などを行う



夢洲：大阪・関西万博
事業スケジュール



※ データ連携及びデータは、ORDEN検討状況を踏まえ検討予定

夢洲：大阪・関西万博

実現をめざす先端的サービス概要

大分類	概要	先端的サービスの詳細内容
大阪・関西万博で体験する近未来の医療・健康サービス	大阪府と大阪市がREBORNをテーマにオール大阪で出展する「大阪ヘルスケアパビリオン」では、未来の診断や健康ケア、未来医療が体験できるサービスを提供。	①ヘルスケアアプリ ②まち中のスキャンマシン ③都市移動用のモビリティ ④ミライのフード体験 ⑤ミライのヘルスケア体験 ⑥ミライの医療
大阪・関西万博におけるスマートモビリティ（自動運転車）	自動運転による 会場内移動、万博アクセス を実現。	⑦万博会場内の移動を、バスの自動運転（レベル4相当）で実施 ⑧万博会場へのアクセスの一部を、バスの自動運転（レベル4相当）で実施
大阪・関西万博におけるスマートモビリティ（空飛ぶクルマ）	会場周辺を中心とする「遊覧飛行」、会場と空港や大阪市内等を結ぶ「二地点間輸送」を実現する。	⑨大阪市内、関西の主要空港、観光地を結ぶアクセス整備を、空飛ぶクルマの社会実装で実現
“OSAKAファストパス”サービス（仮称）	移動に関する情報の収集・提供と、交通流動の最適化を実現。	⑩リアルタイム渋滞・混雑予測サービス ⑪リアルタイムパーク＆ライドサービス

夢洲：大阪・関西万博

大阪・関西万博で体験する近未来の医療・健康サービス

- 大阪府と大阪府がREBORNをテーマにオール大阪で出展する「大阪ヘルスケアパビリオン」では、未来の医療・健康サービスを提供する。



外観イメージ

「大阪ヘルスケアパビリオン Nest for Reborn」

ヘルスケアアプリ



- ヘルスケアデータを取得・記録し、AIなどを活用して、パーソナライズされたサブ情報、生活習慣に係るアドバイスなどをアプリで提供
- デジタルIDに紐づけた生体認証と組み合わせ、デジタル地域通貨による決済、国籍、性別、年齢、バイタル情報、消費行動・位置情報等の情報の取得・活用も検討

※ ヘルスケアアプリは、万博開催前から実装し、2025年の会期終了までの活用を想定。万博後の活用については今後調整。

まち中のスキャンマシン



- ミライ都市に設置されているまち中のスキャンマシンに向き合い、自動ナビゲーションに答えると、来館者一人ひとりにあったおすすめの体験ルートを案内

都市移動用のモビリティ



- ミライ都市を自動走行するモビリティに乗り込むと、簡単な問いかけの応答やセンサーを用いたセンシングによって、自動的にデータを取得
- 取得データを元にパーソナライズされた食、運動、ヘルスケアやエンターテインメントコンテンツを案内

ミライのフード体験



- 取得データに基づいて、食に関するアドバイスをを行うとともに、身体によく美味しい未来のヘルスケアフードを最新のロボティクスにより提供

ミライのヘルスケア体験



- パーソナライズされたヘルスケア・エンターテインメント体験を提供
- AIによる食と身体とココロに関する様々な体験によって、訪れた人が新たな気持ちで明日に向けた一歩を踏み出せるきっかけを提供

ミライの医療



- 未来に実現が想定される先端的な医療技術やサービスを体感
- 再生医療や、遺伝子治療などの驚きの成果を見せていくとともに、子どもから大人までが楽しみながら未来の医療を学び、体験することができる参加型の展示を検討

夢洲：大阪・関西万博

大阪・関西万博におけるスマートモビリティ（自動運転車）

- 大阪・関西万博において、自動運転による会場内移動、万博会場へのアクセスを実現する。

【自動運転／万博会場内】

- 万博会場内の移動を、バスの自動運転（レベル4相当）で実施

【2025年日本国際博覧会基本計画】＜P.67 抜粋＞

【会場内輸送】

高齢者、障がい者、子連れの家族等、様々な来場者が快適に会場内を移動できるように、また先進的なモビリティを体験する機会を得られるよう、多様なモビリティを導入する。

会場内EVバス運行イメージ



出典：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会ホームページより抜粋

【自動運転／万博アクセス】

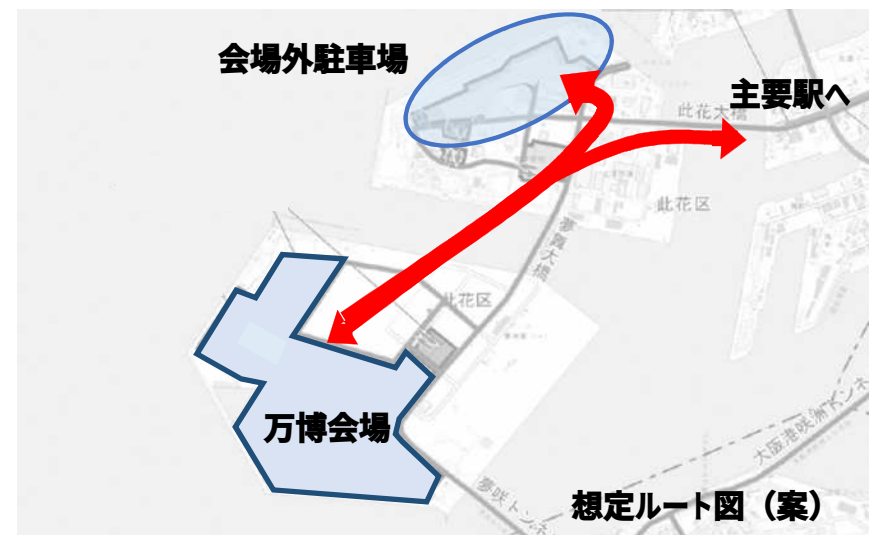
- 万博会場へのアクセスの一部を、バスの自動運転（レベル4相当）で実施

【大阪・関西万博 来場者輸送基本方針】＜P.12 抜粋＞

3. 輸送計画（4）新たな移動サービスの実践

「未来社会の実験場」をコンセプトとして掲げている大阪・関西万博の開催を契機として、MaaSや自動運転等を積極的に取り入れた新たな移動サービスを実践する。

会場へのバス運行イメージ



想定ルート図（案）

夢洲：大阪・関西万博

大阪・関西万博におけるスマートモビリティ（空飛ぶクルマ）

- 空飛ぶクルマの社会実装の後押しと、社会受容性の向上に向け、2025年大阪・関西万博での空飛ぶクルマによる旅客輸送実現を図る。

「空飛ぶクルマのある社会」

自由な空の移動

空飛ぶクルマの実現により、新たな移動体験、移動の自由を提供するとともに、人や物の移動の迅速性、利便性向上を通じて、新しいサービスの展開や各地での課題解決が実現される

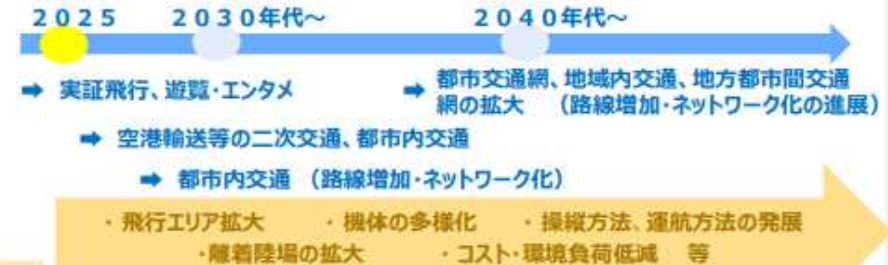
- ⇒ 移動の自由拡大・迅速な移動
- ⇒ 救命救急・災害対応
- ⇒ 離島・中山間地域での移動
- ⇒ 観光地への迅速な移動
- ⇒ 低環境負荷な移動
- ⇒ 陸海空のシームレスな移動



中期的な空飛ぶクルマ実装に向けた万博の位置づけ

高密度運航、路線の増加、全国への展開

大阪・関西万博での飛行を起点とし、都市部や地方部、救急輸送等における実運用・商用運航への展開が進む



万博で実現する意義

社会実装の後押し と 社会受容性の向上

- 大阪・関西万博での空飛ぶクルマの飛行実現を共通の目的と定めることで、機体開発や制度整備、飛行実現に向けた課題解決が進み、さらに万博での空飛ぶクルマ実現が、万博後の**社会実装の後押し**となる。
- また、世界中、日本全国からの注目が集まる万博で空飛ぶクルマの旅客輸送を行うとともに、自由な空の移動や、空飛ぶクルマにより実現される社会像を発信することで、空飛ぶクルマに関する**社会受容性**を大きく押し上げる。

万博で目指す空飛ぶクルマ実現の絵姿（実現したいこと）

- ▼ 万博後のユースケースに近い形で（旅客輸送の実現）
- ▼ より多くの**体験価値**を提供（体験価値の総和の最大化）

万博後のユースケースに近い形（旅客輸送の実現）

- ⇒ 遊覧飛行に留まらず、空港などの会場外ポートとの**2地点間飛行**を行う
- ⇒ **旅客**を乗せた形で、営業飛行を行う
- ⇒ **高頻度な運航**を目指す

より多くの体験価値を提供（体験価値の総和の最大化）

- ⇒ 機体ショールームなどを設け、多様な機体や「空飛ぶクルマのある社会」を体験できるようにすることで**体験価値**を最大化する工夫を行う。
- ⇒ 観覧場などを整備し、実際に体験できない方も空飛ぶクルマが未来社会の移動手段として身近に感じられる**観覧体験**の最大化等工夫を行う。

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会作成

出典：「2021年度空の移動革命に向けた官民協議会 実務者会合の検討状況について 大阪・関西万博×空飛ぶクルマ実装TF 2021年度のとりまとめ」
経済産業省製造産業局 次世代空モビリティ政策室、国土交通省航空局 次世代航空モビリティ企画室

夢洲：大阪・関西万博

大阪・関西万博におけるスマートモビリティ（空飛ぶクルマ）

- <めざすべき絵姿> 会場周辺を中心とする「遊覧飛行」、会場と空港や大阪市内等を結ぶ「二地点間輸送」を実現する。環境アセスメントの範囲に収まる飛行経路・高度により、安全を確保しつつ、万博会場において可能な限り高頻度な運航（1時間に20回程度の離発着を目標）の離発着を行うことをめざす。この際、周辺上空のヘリコプターや無人航空機とも調和した運用をめざす。

大阪・関西万博×空飛ぶクルマ実装TFの中で提案のあった遊覧、2地点間輸送の路線

※TF参加事業者が目指す現時点の路線案であり、確定したものではない。

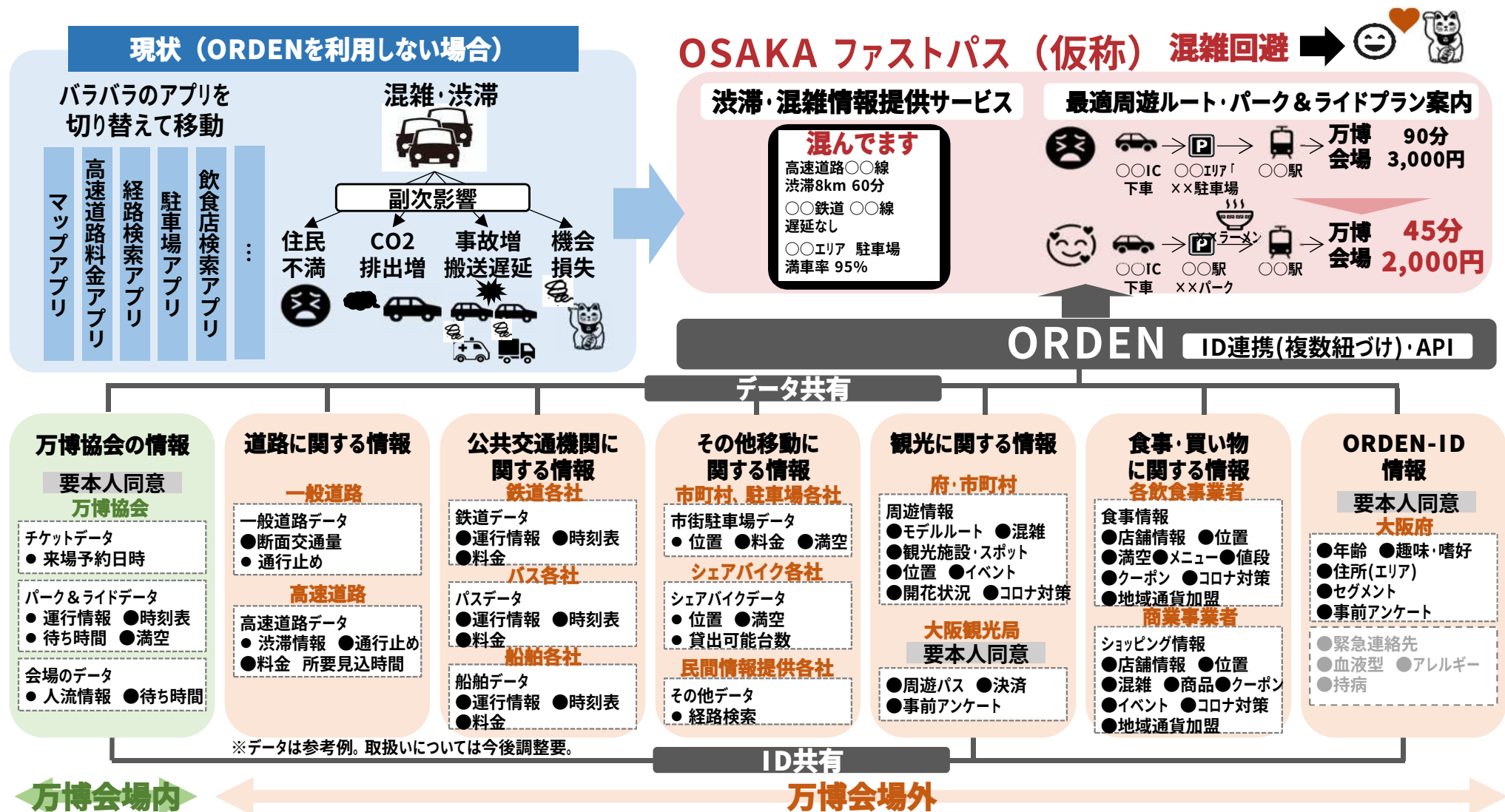


出典：「2021年度空の移動革命に向けた官民協議会 実務者会合の検討状況について 大阪・関西万博×空飛ぶクルマ実装TF 2021年度のとりまとめ」
経済産業省製造産業局 次世代空モビリティ政策室、国土交通省航空局 次世代航空モビリティ企画室

夢洲：大阪・関西万博

OSAKAファストパスサービス(仮称) サービスイメージ

- 「OSAKAファストパスサービス(仮称)」では、万博の情報、移動に関する情報、混み具合に関する情報の連携による快適な万博観光の実現をめざす。
- 民間事業者を中心とした事業検討体を構築し、今後検討を具体化していく。



夢洲：大阪・関西万博 特例措置（実現に必要な規制改革）

- 先端的服务の一部においては、実現にあたって規制改革が必要となるため、下表に示すような提案をしていく。

大分類	概要	特例措置
大阪・関西万博で体験する近未来の医療・健康サービス	大阪府と大阪市がREBORNをテーマにオール大阪で出展する「大阪ヘルスケアパビリオン」では、未来の診断や健康ケア、未来医療が体験できるサービスを提供。	医師法 プログラムの医療機器該当性に関するガイドライン 情報銀行の健康医療に関する適用 食品表示法 機能性表示食品制度 健康増進法 薬機法
大阪・関西万博におけるスマートモビリティ（自動運転車）	万博会場へのアクセスの一部を、バスの自動運転（レベル4相当）で実施。	（参考） 道路交通法 ・令和4年4月に改正され、自動運転レベル4に相当する運転者がいない状態での自動運転である特定自動運行の許可制度の創設等を内容とする第75条の十二等が新設済。 ・但し、自動運転関係の規定については公布（令和4年4月）から1年以内に施行予定であり、今後詳細について精査。
大阪・関西万博におけるスマートモビリティ（空飛ぶクルマ）	日本初の空飛ぶクルマの社会実装。	「空飛ぶクルマ」の離発着ポートの設置に向けた制度整備（航空法第79条、河川法第24条・第26条・第27条、港湾法第37条など） 「空飛ぶクルマ」の機体や運航の安全基準に関する制度整備（航空法第11条・第62条・第63条、航空法施行規則第180条など）
“OSAKAファストパス”サービス（仮称）	移動に関する情報の収集・提供と、交通流動の最適化を実現。	路上駐車場、路外駐車場に係る変動駐車料金の設定・表示に関する特例（駐車場法第6条、第8条、第13条など） 乗合バス、鉄道等の混雑緩和のための変動運賃等の設定に関する特例（道路運送法第9条、鉄道事業法第16条など）

うめきた2期 Parkness Challenge

うめきた2期 Parkness Challenge 全体概要

- 都心の大規模ターミナル前に立地するうめきた2期では、国際競争力の向上を目指し、隣接する先行開発区域（1期）とあわせて、業務（延床約30万㎡）・商業（延床約9万㎡）など質の高い都市機能を集積させ、年間7000万人を超える来街者を想定。
- 2期地区の約半分を占める大規模な「みどり」を活用し、ワーカー・観光客など来街者に「みどり」を使った体験や行動変容の機会の創出を図る。
- 例えば、ヒューマンデータとAI分析等による健康増進プログラムの提供による未病対策、多様な体験や実証実験を可能とするリアルとデジタルの融合した新たな価値創造空間の創出やこれを支えるローカル5G通信の整備など、来街者の利便性向上に資する先端的服务を提供する。

うめきた2期において先端的服务を実証・実装し、他の地区での将来的なまちづくりに活用



※民間開発事業者資料等をもとに作成。2020年12月時点のイメージ図であり、今後変更の可能性あり。[提供者：うめきた2期地区開発事業者]

うめきた 2 期 Parkness Challenge 事業スケジュール

		フェーズⅠ ～2024年 Before万博	フェーズⅡ 2025年 With万博	フェーズⅢ 2026年～ After万博
利用者		インフラ整備（都市公園・道路など）		
		うめきた（新駅）整備	来街者（買物客・観光客・府民・市民）	
			企業・オフィスワーカー	
主な 先端的サービス			※その他、パートナー事業者に応じて追加するサービスあり	
	サービス内容 検討	実証 （内閣府）	1 ヒューマンデータ利活用に資する プラットフォームの提供	
	サービス内容 検討	実証 （国交省）	2 パーソナルモビリティのシェアサービス	
	サービス内容 検討	実証 （国交省）	3 先端技術を用いた公園内・建物内における施 設管理、配送などのマネジメント高度化	
	サービス内容検討、 官民体制の検討・実証	実証 （内閣府）	4 リアルとデジタルの融合した都市空間 ＝Parknessを実現するためのD X 推進	
データ 連携※	データ※		ヒューマンデータ、人流データ等	
	ローカル プラットフォーム	検討・調達・整備	うめきた 2 期データプラットフォーム運用 （民間）	

※ データ連携及びデータは、 ORDEN検討状況を踏まえ検討予定

うめきた2期 Parkness Challenge 実現をめざす先端的サービス

大分類	概要	先端的サービスの詳細内容
ヒューマンデータ利活用に資するプラットフォームの提供	うめきた2期地区の来街者のヒューマンデータ（心理、生理、脳情報、行動など）を本人同意のもと取得し、先進的なサービスや製品開発を志向するサービス事業者が当該データを活用できる環境を構築する。	① ヒューマンデータとAI分析等によるエビデンスに基づく健康増進プログラム
パーソナルモビリティサービスのシェアサービス	パーソナルモビリティ※の利用環境を整備することにより、利用者の公園内外の移動を円滑にする。※シェアサイクル、電動キックボード、低速モビリティ、自動走行モビリティ等	② パーソナルモビリティによるエリアの回遊性やラストワンマイルの移動快適性の向上
先端技術を用いた公園内・建物内における施設管理、配送などのマネジメント高度化	人手不足が深刻化する中、建物・公園の維持管理・運営業務について、画像解析・ロボット・ドローン等の技術を活用することにより、業務の省人化・無人化をめざす。	③ 画像解析を用いた施設管理（AIカメラやビーコン、センサー等） ④ ICTを活用した「みどり」管理（ICT、ロボット等の活用） ⑤ ICTを活用した設備・エネルギー管理（人の位置情報や環境情報を基にスマートな設備制御）
リアルとデジタルの融合した都市空間＝Parknessを実現するためのDX推進	多様な体験や実証実験を可能とするリアルとデジタルの融合した新たな価値創造空間の創出やこれを支えるローカル5G通信の整備など、来街者の利便性向上に資する先端的サービスの提供をめざす。	⑥ デジタルサイネージやLEDビジョン等を用いた感性をシェアする空間の創造 ⑦ ミラーワールドを構築し、MR技術により現実と重ね合わせることで、絶景・癒し・ホラー等、多種多様なテーマの世界を体験できるイベントを検討 ⑧ Social Goodな活動を行った会員に対し、公園で提供するサービスに利用できるポイントの発行 ⑨ 来街者に対する混雑状況等の提供 ⑩ 都市公園の行為許可・占用許可等の行政手続きのオンライン化 ⑪ リアルタイム・オンラインサービスを支える大容量通信網（ローカル5G等）の整備 ⑫ 先端的な技術や先駆的サービスを通じた「様々な体験価値」を市民や来街者に提供し、市民のQOL向上とライフデザインイノベーションを実現する仕組みの提供

うめきた2期 Parkness Challenge 特例措置

- 先端的サービスの一部においては、実現にあたって規制改革が必要となるため、下表に示すような提案をしていく。

大分類	概要	特例措置
ヒューマンデータ利活用に資するプラットフォームの提供	①ヒューマンデータとAI分析等によるエビデンスに基づく健康増進プログラム	・健康増進プログラムに係る医療費控除適用対象期間（7日程度）について、利用頻度の条件緩和〔所得税法〕
リアルとデジタルの融合した都市空間＝Parknessを実現するためのDX推進	⑪リアルタイム・オンラインサービスを支える大容量通信網（ローカル5G等）の整備	・地域エリアを一体的にカバーする「広域的な利用（他者土地利用）」に関する規制の緩和〔電波法〕
	⑫先端的な技術や先駆的サービスを通じた「様々な体験価値」を市民や来街者に提供し、市民のQOL向上とライフデザインイノベーションを実現する仕組みの提供	・仮設建築物に関する要件や期間などの制限緩和〔建築基準法〕

将来の姿～万博レガシー～

将来の姿～万博レガシー～

グリーンフィールドからブラウンフィールドへ展開（レガシー）

- 万博会場での実証・実装、また、大阪広域データ連携基盤（ORDEN）を活用して、万博会場のみならず、大阪府域へ万博のレガシーを継承する。
- 具体的には、スーパーシティ構想において、大阪・関西万博関連では以下の4つの先端的サービスの実装をめざし取り組む。

2025年 With万博

万博会場



2026年～ After万博

万博レガシー

1

医療・健康等

先端国際医療の提供

日常化された先端医療サービスの実現

遠隔医療や遠隔投薬、AIやロボットによる診療支援、再生医療などの先端医療サービスを、国籍や場所を問わず、日常的に享受することができる環境を整備

2

医療・健康等

データ連携等によるサービスの高度化

次世代PHRと新たなテクノロジーを活用

データ連携基盤などを通じて健康、医療、介護、スポーツなど、多岐にわたるデータを繋いだ次世代PHRを活用し、AI等の新たなテクノロジーを利用することで、健康・医療のシームレスな融合や個人への最適化など、高度化された様々な先端的サービスを提供

3

移動・物流等

大阪版都市型MaaS

多様なサービスをつないで街を活性化

交通手段による移動を1つのサービスとして捉え、それらをシームレスにつなぐことで、移動を支えるトータルサービスを実現し、多様なサービスが選択できる都市型MaaSを社会実装

4

移動・物流等

日常での空飛ぶクルマ普及

街なかにポートが存在する日常モビリティ

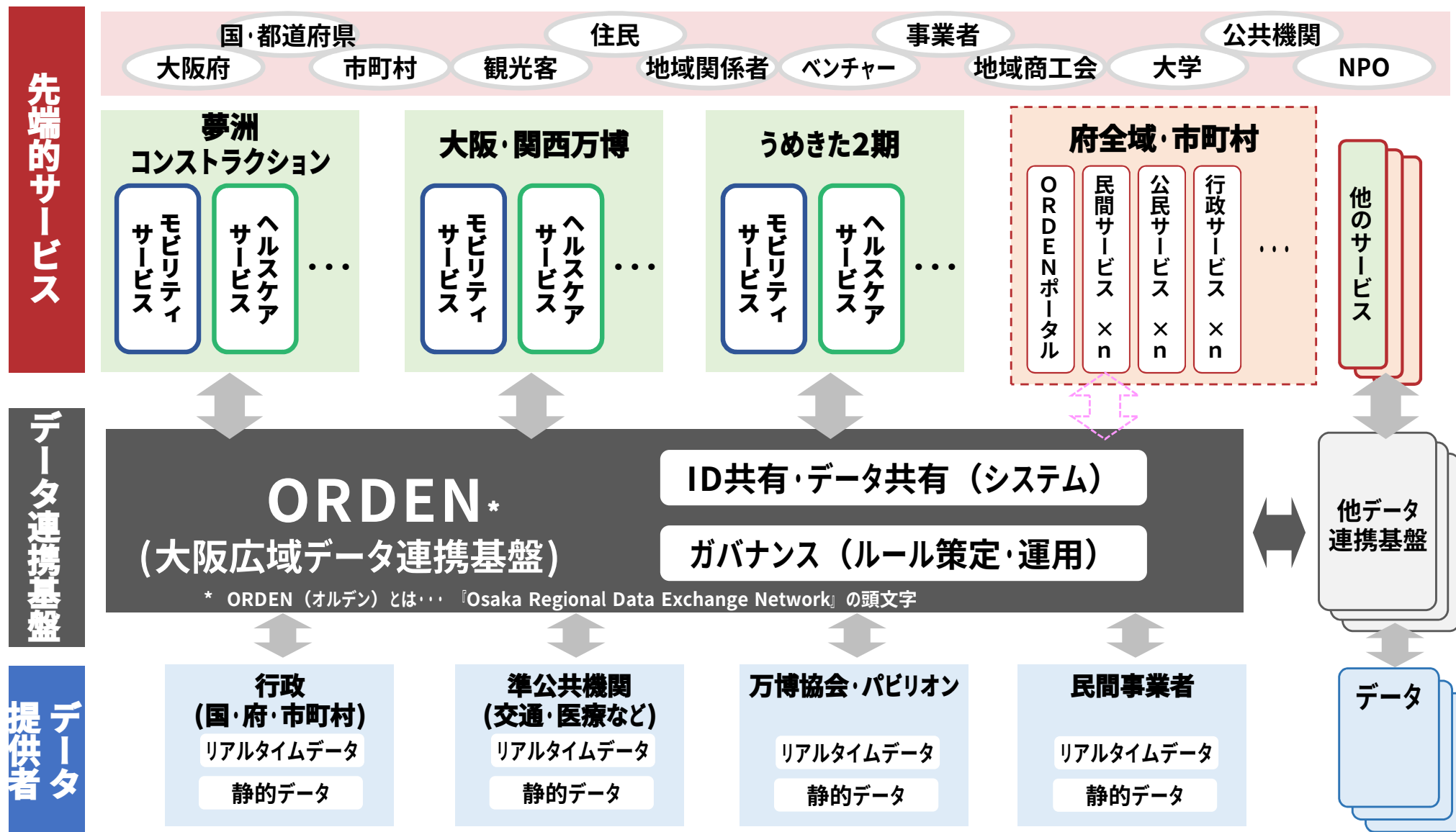
主要駅やビルの屋上（Hポート・Rポート）、コンビニの駐車場、ウォーターフロントなど、市街地の様々な場所にポートが存在し、日常使いのモビリティとして空飛ぶクルマが普及

スーパーシティと
万博レガシーを
880万府民につなぐ

広域データ連携基盤による府域展開

広域データ連携基盤による府域展開 大阪広域データ連携基盤（ORDEN）の概要

- 2025年大阪・関西万博をマイルストーンとして、交通・観光・行政など、広域、官民、分野横串でデータ連携を進め、先端的サービスの社会実装を実現。



※具体的なデータはデータ提供者と調整・協議

広域データ連携基盤による府域展開

大阪広域データ連携基盤（ORDEN）整備 ロードマップ案

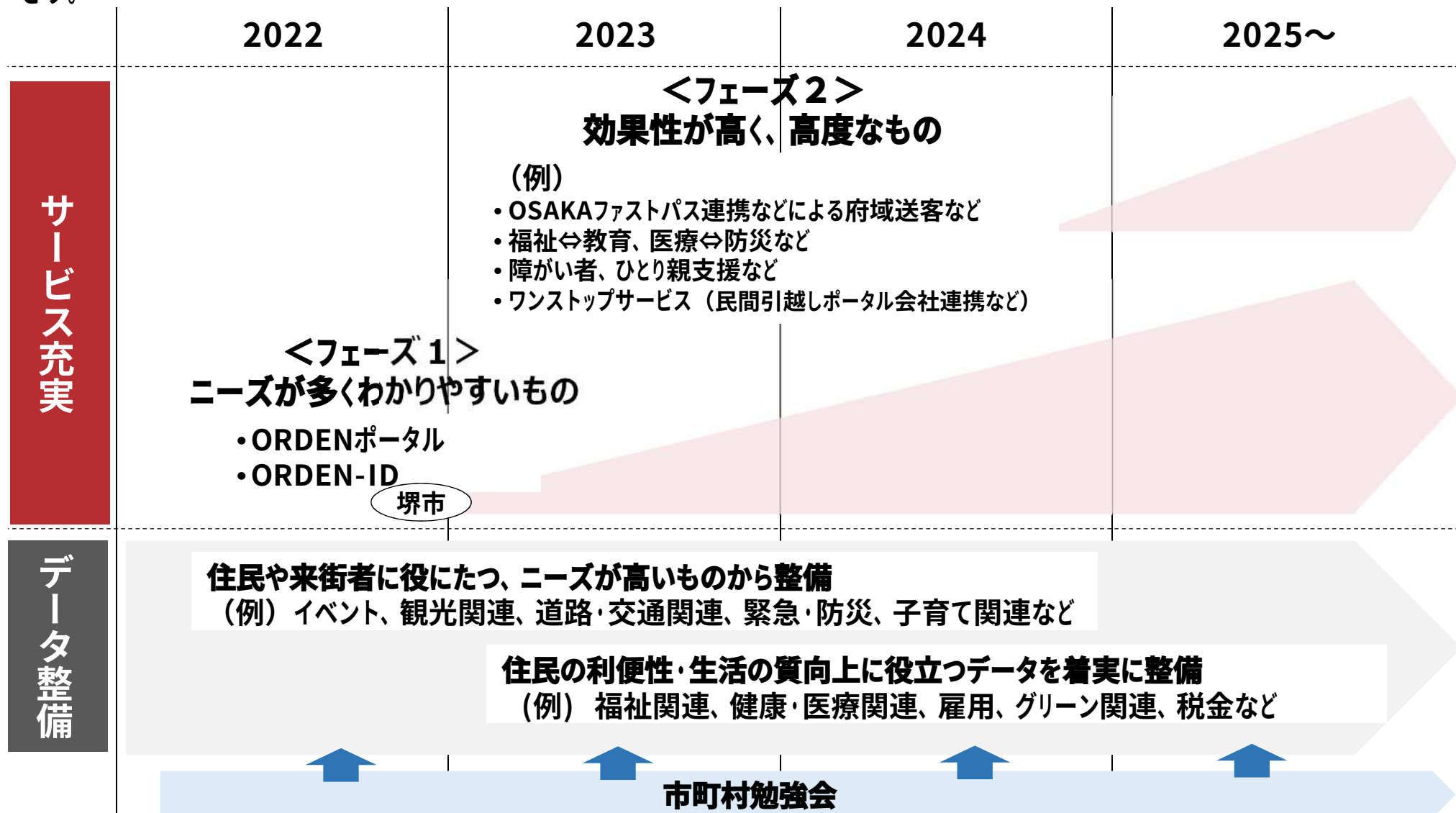
- 3 STEPで広域かつ万博レガシー継承を担うデータ連携基盤（インフラ）に成長させる計画。
- 2023年度はSTEP1の基盤実装とSTEP2のサービス企画が中心となる。

2022年度	2023年度	2024年度～2026年度
大阪・関西万博のデータ基盤と繋ぐ基本設計を中心にスタートし、 2022年度中に、市町村や民間企業と協議しながら、「サービス」と「データ」の連携可能性について、さらに具体化。	市町村や企業と連携したサービス構築を行い（2～3事業）分野間のデータ連携が可能なシステムに拡張	要配慮情報（健康データ等）が流通できる機能を付加し、健康寿命の延伸を目指す、スマートヘルスシティを実現
		STEP 3 ヘルスケアサービスの実装が可能になる機能
		■ 追加機能：要配慮情報の蓄積・流通、 ■ サービス：ヘルスケア（健康寿命延伸）
	STEP 2 スーパーシティや万博レガシーを府域に展開できる機能	
	■ 追加機能：万博連携(スマート交通、周遊、ヘルスケア)、市町村連携、民間連携 ■ サービス：行政サービスや民間サービスの高度化(住民の利便性と生活QoL向上、行政効率化)	
STEP 1 スーパーシティの最低限の応募要件を満たす機能		
■ 構築機能：基本機能としてのルール、ID管理、ID連携、同意管理、認証認可、ポータル 最低限のデータ連携機能(分散仲介(制御・)、外部データ連携(I/F標準)、データカタログ) ■ サービス：大阪・関西万博との連携事業（ID一元化／連携）		

広域データ連携基盤による府域展開

大阪広域データ連携基盤（ORDEN）の府域拡充への取組

- 多くの市町村のニーズが見込めるORDENポータル、ORDEN-ID、特定のデータ整備を進め、堺市とパイロット運用を開始し、府内市町村への拡充をすすめる。また次の段階として2024年度以降を目標にアウトリーチ利用などの高度な活用ケースの実現もめざす。



第4章

推進体制

産官学民の連携により実現

スーパーシティ構想の推進体制

- 本計画に示した通り、大阪のスーパーシティは、複数分野にわたる先端的服务が組み合わさり課題解決に導く取組である。この実現には、自治体に加え、民間事業者等の強いコミットメントを得て強力に推進していくことが必要となる。
- 全体計画や区域計画は、事業実施主体が先端的服务実装を効果的に進められるよう、その土台となっていく。

